

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究(B)  
 研究期間：2005～2008  
 課題番号：17320054  
 研究課題名(和文) アジア(含オーストラリア)における英米文学の受容・変容(19世紀—21世紀)  
 研究課題名(英文) Reception and Transformation of English and American literature in Asia (including Australia), from 19<sup>th</sup> century to 21<sup>st</sup> century  
 研究代表者  
 齋藤 一 (SAITO HAIJME)  
 筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・講師  
 研究者番号：20302341

## 研究成果の概要：

国内外の英語文学研究者(日本、韓国、中国、台湾、マレーシア、インド、トルコ、フィリピン、シンガポール)と日本文学研究者が、研究課題について、英語論集(2007年、マレーシア)と日本語論集(2008年、日本)を出版し、国際会議(2008年、台湾)を行うことで、共同作業による英語文学研究を推進する知的基盤を確立することができた。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	6,400,000	0	6,400,000
2006年度	3,400,000	0	3,400,000
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
総計	14,900,000	1,530,000	16,430,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 各国文学 文学論

キーワード：英米文学、アジア、受容と変容、ポストコロニアル、翻訳、シェイクスピア

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費補助金(基盤研究(C))(平成13年度～16年度)「日本および東アジアにおける英米文学の受容と変容(19世紀・20世紀)」(研究代表者：荒木正純)、課題番号：13610682)の拡大発展を目指して始まった。

## 2. 研究の目的

本研究の主な目的は以下の二点である。

- (1) 国内外における研究者同士のネットワークの拡大
- (2) 日本文学や英文学といった分野の垣根を

## 越えた学際的共同研究の模索

## 3. 研究の方法

基本的には、各研究分担者が本研究課題を意識して独自に研究を行い、その成果は4で詳述した日本語・英語論集や国際学会などで発表した。このようにして、分担者同士が研究成果を共有し、相互に議論をおこなった。

## 4. 研究成果

本研究の主要な成果としては、以下の三点を挙げることができる。

- (1) Araki, Lim, Minami, Yoshihara eds.,

*English Studies in Asia* (Malaysia: Silverfish Books, 2007) を出版したこと。

(2) 筑波大学文化批評研究会編『テキストたちの旅程——移動と変容の中の文学』(花書房、2008年)を出版したこと。

(3) 国際学会 Reception and Transformation of American and English Literature in Asia (September 26-7, 2008) を、筑波大学と国立台湾大学との共催にて開催したこと。

(1)と(3)によって、国内外の英語文学研究者同士のさらなる共同研究を可能にする基盤を構築することができた。しかし、本研究に参加した日本文学研究者と英語文学研究者の共同研究や、日本文学研究者による本研究課題の理論的検討については、(2)の出版においてその萌芽を認めることができるのみであった。

今後は、真に学際的な研究を実現するため、例えば連名にて論文を執筆するといった、文学研究においてはほとんど行われない作業を可能にする場を作り上げる必要がある。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

① 波瀆剛 「〈主知/未知〉のアフリカ——新興芸術派と阿部知二」、『文学研究論集』(筑波大学比較・理論文学会) 第 27 号、21-34 頁、査読有、2009 年

② 浜名恵美 「海外新潮 シンガポール・文語タミル語翻訳・翻案『タイタス・アンドロニカス』」、『Shakespeare News』第 47 巻 3 号、査読有、37-40 頁、2008 年

③ 清水知子 「〈英文学〉の解体か、再生か——ブッカー賞という文化装置」、『比較文化研究』(筑波大学) 第 3 巻、46-57 頁、査読有、2007 年

④ 南富鍾 「〈虎〉と〈妓生〉の朝鮮表象——中島敦」、『人文論集』(静岡大学人文学部) 1 号、第 56 号 2、1-21 頁、査読無、2006 年

⑤ 鶴田学 「メアリー・ラムの観た『夏の夜の夢』——『ロンドンのラム家』の相互テクスト性——」、『福岡大学研究部論集第 6 巻 A: 人文科学編』2 号、1-11 頁、査読有、2006 年

⑥ 佐野正人 「アジアと北米とをまたぐトランスナショナルな場への問い——「〈移動する〉文学から何が見えるか——北米日系移民の

日本語文学と近代日本」ディスカッションを通して」、『日本近代文学』、74 号、431-5 頁、査読無、2006 年

⑦ 土屋忍 「釋迢空の南洋詠」、『國文學』(学燈社) 第 51 巻 10 号、96-102 頁、査読無、2006 年

⑧ 南富鍾 「『吳鳳伝説』の朝鮮的な受容——植民地文化研究のための覚え書き」、『人文論集』(静岡大学人文学部) 第 56 号 1、1-24 頁、査読無、2005 年

⑨ 大熊榮 「サルマン・ルシュディとファンタジー——『ハルーンとお話の海』への注釈」、『筑波ファンタジー研究』1 号、1-14 頁、査読無、2005 年

⑩ 土屋忍 「〈南洋〉という視座を抜きにして「昭和文学」は語れない」、『日本近代文学』第 73 集、231-239 頁、査読有、2005 年

[学会発表] (計 9 件)

① 日比嘉高 「アメリカへ渡る法——明治期の北米移民送出言説」、筑波大学総合文学領域国際シンポジウム「帝国の学知と表象——朝鮮、台湾、北米」、筑波大学、2009 年 2 月 21 日

② 中根隆行 「『満鮮』観光における朝鮮の位置づけ」、筑波大学総合文学領域国際シンポジウム「帝国の学知と表象——朝鮮、台湾、北米」、筑波大学、2009 年 2 月 21 日

③ Akiko Takamori, “The Place of Literature in English Language Education in Japan,” Reception and Transformation of American and English Literature in Asia, National Taiwan University (Taiwan), September 26, 2008

④ Hajime Saito, “Dublin-Nemuro: On Yanase Naoki’s ‘Japanese’ Translation of James Joyce’s *Finnegans Wake*,” Reception and Transformation of American and English Literature in Asia, National Taiwan University (Taiwan), September 26, 2008

⑤ Yukari Yoshihara, “Which is global, Shakespeare or Manga?” Reception and Transformation of American and English Literature in Asia, National Taiwan University (Taiwan), September 26, 2008

⑥ Ryuta Minami, “ ‘Thou doth here usurp the name thou ow’ st not’ : Recreating Shakespearean Characters in Japanese Pop Culture,” Reception and Transformation of American and English Literature in Asia, National Taiwan University (Taiwan), September 27, 2008

⑦ 鶴田学 「1599年の『ジュリアス・シーザー』—舞台上の民衆と土間の民衆」、日本英文学会第80回大会、広島大学東広島キャンパス、2008年5月25日

⑧ Tomoko Shimizu, “Who is Stealing My House?”, Entitled: The Photography/Text Interface in Japan and Beyond, University of Tronto (Canada), May 3 2007

⑨ Yukari Yoshihara, “Shakespeare Localised / Japanised in the Age of Globalisation,” The Eighth World Shakespeare Congress, University of Queensland (Australia), July 18, 2006

[図書] (計6件)

① 荒木正純 『芥川龍之介と腸詰め——「鼻」をめぐる明治・大正期のモノと性の文化誌』悠書房、全296頁、2008年

② 筑波大学文化批評研究会編 『テキストたちの旅程——移動と変容の中の文学』花書房、全329頁、2008年

吉原ゆかり 「英語で書かれた文学のインターカルチュラルな〈移動〉——科学研究費補助金研究課題「アジア(含むオーストラリア)における英米文学の受容・変容(一九～二一世紀)活動報告」(14-28頁)、且比嘉高 「移植樹のダンス——翁久允と「移民地文芸」論」(46-45頁)、荒木正純 「「羅生門」胚胎と明治期の「さびれ」言説——「大川の水」「松江印象記」「大窪だより」「日和下駄」を中心に」(236-73頁)、中根隆行 「北海道のロビンソンたち——開高健『ロビンソンの末裔』と開拓農民をめぐる物語」(289-303頁)、齋藤一 「売買川走」(304-13頁)、浜名恵美 「現代(日本)演劇における移動と変容——平田オリザ作『ソウル市民三部作』、野田秀樹作『The Bee』、三谷幸喜作『笑いの大学』に関する考察」(314-27頁)、他11名

③ Araki, Lim, Minami, Yoshihara eds., *English Studies in Asia*, Malaysia: Silverfish Books, 全251頁, 2007

Yukari Yoshihara, “The Past, the Present and the Future of the project, ‘English Studies in Asia’ (introduction)” [pp.9-23]、Masazumi Araki, “How a sausage-like nose of a priest was conceived,” [pp.24-34]、Ryuta Minami, “ ‘No Literature Please, We’ re Japanese, ’ : The Disappearance of Literary Texts from English Classroom in Japan,” [pp.145-165]、Hajime Saito, “Let Us Open Our Paragraph,” [pp.180-90]、他12人

④ 加藤行夫 「シェイクスピアの悲劇」(83-96頁)、日本シェイクスピア協会編『新編シェイクスピア案内』研究社、全246頁、2007年

⑤ 齋藤一 『帝国日本の英文学』人文書院、全202頁、2006年

⑥ Ian Carruthers, ed., *Reading Suzuki Tadashi’s The Chronicle of Macbeth in Australia*, 筑波大学比較文学研究会、全154頁、2006年

[その他]

国際シンポジウム Reception and transformation of American and English Literature in Asia のホームページの URL

<http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~rtelat/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

平成17年～平成19年

荒木正純 (ARAKI MASAZUMI)

筑波大学・大学院人文社会科学研究所・教授

研究者番号：80015883

平成20年度

齋藤一 (SAITO HAJIME)

筑波大学・大学院人文社会科学研究所・講師

研究者番号：20302341

### (2) 研究分担者

吉原ゆかり (YUKARI YOSHIHARA)

筑波大学・大学院人文社会科学研究所・准教授

研究者番号：70249621

イアンカラザース (IAN CARRUTHERS)

筑波大学・大学院人文社会科学研究所・准

教授  
研究者番号：70400603

加藤 行夫 (KATO YUKIO)  
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授  
研究者番号：30092927

浜名 恵美 (HAMANA EMI)  
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授  
研究者番号：20149355

清水 知子 (SHIMIZU TOMOKO)  
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・講師  
研究者番号：90334847

南 隆太 (MINAMI RYUTA)  
愛知教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：60247575

日比 嘉高 (HIBI YOSHITAKA)  
京都教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：80334019

土屋 忍 (TSUCHIYA SHINOBU)  
武蔵野大学・文学部・准教授  
研究者番号：20302200

佐野 正人 (SANO MASATO)  
東北大学・大学院国際文化研究科・准教授  
研究者番号：90248724

鶴田 学 (TSURUTA MANABU)  
福岡大学・人文学部英語学科・准教授  
研究者番号：60352225

高森 暁子 (TAKAMORI AKIKO)  
筑紫女学園大学・文学部英語メディア学科  
・講師  
研究者番号：40341531

中根 隆行 (NAKANE TAKAYUKI)  
愛媛大学・法文学部・准教授  
研究者番号：80403799

波瀨 剛 (NAMIGATA TSUYOSHI)  
九州大学・大学院比較社会文化研究院・准教授  
研究者番号：10432882

南 富鎮 (NAM BUJIN)  
静岡大学・人文学部・教授  
研究者番号：30362180

(平成20年度は連携研究者)

大熊 榮 (OOKUMA SAKAE)  
関東学院大学・文学部・教授  
研究者番号：80104743  
(平成17年度～18年度)

(3) 連携研究者

荒木 正純 (MASAZUMI ARAKI)  
白百合女子大学・文学部英語英文学科・教授  
研究者番号：80015883  
(平成20年度)

吉田 直希 (YOSHIDA NAOKI)  
小樽商科大学・商学部・准教授  
研究者番号：90261396  
(平成20年度)